

調査・事例収集の報告 都市の潜在的移動希望者に対する調査

(1) 調査の概要

- ・ 移動ニーズの顕在化を阻害している要因や今後の課題等を分析するために、都市の潜在的移動希望者等へのインタビューを通じて事例を収集した。
- ・ 具体的には、地方自治体が実施している体験ツアー等への参加者から移住・二地域居住等の希望者を抽出して、インタビューを実施。
- ・ インタビュー件数は8件。そのうち2件は相談窓口担当者(NPOふるさと回帰支援センターが東京・銀座に設置している移動に係る情報提供・相談窓口「ふるさと暮らし情報センター」及び北海道が委託して北海道・函館に設置している移動に係る情報提供・相談窓口「北海道コンシェルジュ」の担当者)。個別の事例は別添個票のとおり。

(2) ヒアリング結果のポイント(相談窓口に聞いた一般的な傾向)

移動の目的

- ・ 家庭菜園や自然を楽しむスローライフ派が中心。仕事で稼ぐことは目的としていない方が多い。就業希望する方も多いが、実際に見つけるのは困難で仕事なしに移動する方も多い。

移動地域の選択理由

- ・ 相談時に移動先を決めている場合の理由は、親の介護問題、Uターン、地域への思い入れ、地域のブランドなど。
- ・ 相談時に移動先を決めていない場合の理由は、自然環境や気候、交通の利便性、都市機能の有無など。
- ・ 最終的には、住宅と仕事、地域の受入担当者の親身なお世話がカギになる。

移動までのプロセス

- ・ 相談者の4割程度は体験ツアー等を利用して現地を確認している。
- ・ 移動希望者は相談窓口を通じて情報収集し、生活体験により現地のことを知り、そのうえで移住に至るというプロセス。

移動にあたっての問題点

- ・ 積雪は避けたいという意向が強い。生活利便性や行政サービスはあまり重視されていない。医療・介護も決定的な要因とはならない。
- ・ 行政サービスは自治体ごとに優遇制度等のバラつきがあることが不評。
- ・ 必要なのは観光情報ではなく、生活情報、なかでも不動産情報である。

行政への要望と提案

- ・ 自治体のメニュー(農業、生活一般、医療・介護など)ごとの窓口がどこか明確にして欲しい。
- ・ 地域が求めている人材(保有技術・ノウハウ等)に関する情報を発信して欲しい。

(3)ヒアリング結果のポイント(個人へのヒアリング結果)

移動の目的

- ・ 家庭菜園と趣味活動で自然を満喫したいとの意向が多い。
- ・ 仕事はほどほどに年金暮らしを基本としている。
- ・ 生活・福祉サービス付きの有料老人ホームを探して終の住家とする方もいる。
- ・ なかにはボランティア活動として中小企業支援などをしたいという意向もある。

移動地域の選択理由

- ・ 観光したことがある、地縁がある、出身地である等で地域の環境を知っていることが基本となっている。
- ・ そのうえで、自然環境が良く田舎暮らしが楽しめる、交通の利便性がよい、雪が少ない、趣味活動ができることなどを理由とする方が多い。
- ・ そのほか、親の住居に近い、物価が安い、都市機能(仕事やNPO活動)があるなどがあげられている。

移動までのプロセス

- ・ 総合相談センターや田舎暮らしの本で情報を集めるところからスタートしている。その後、体験ツアー等を利用して現地を何度か視察する。しかし、総合相談センターの存在を知らない方もいる。
- ・ 現地との交流は安心感を得るのに有効との声がある一方で、それだけでは本音が聞けないので、知り合いに聞くことが有効との声もある。
- ・ 移動の最初は家を借りて(もしくは二地域居住で行ったり来たりしながら)現地を理解してから家を購入するという方が多い。

移動にあたっての問題点

- ・ 車が運転できる70歳位までは生活利便性は気にしないという方が多い。
- ・ 現地とのつながりを深くすることによって、空き家等の不動産情報を継続的に入手できるようになった方もいる。
- ・ また、親が病弱なのでそのケアをどうするかが問題となっている方もいる。
- ・ 自分のスキルやノウハウを地域に活かしたい場合に、地元が求めるスキル等の内容やレベルが分からずに不安との声もある。

行政への要望と提案

- ・ 通り一遍の情報ではなく、生活の実態まで分かるような情報を一元的に管理して提供してもらいたいとの希望が多い。それらの情報に利用者がアクセスするのではなく、メールマガジン等で定期配信してもらえると良いという意見もあった。また、仕事(就業)情報ではない農繁期の手伝いやスポット的な事務等の地元で馴染まなければ入手できない情報が欲しいという意見もあった。
- ・ 移動失敗者の体験談や移動するまでの手順が分かるような移動するまでの体験談も聞きたいとのニーズもある。
- ・ 地域がどんな人、どんなスキルやノウハウを持った人に来てもらいたいのか明確にしてもらえると、無用に遠慮したり心配したりすることもなくなる。
- ・ 自治体ごとに優遇制度等のバラつきがあるので統一してほしい。

ヒアリング結果一覧(その1)

質問項目		No. (東京の相談窓口に行った一般的な傾向)	No. (北海道の相談窓口に行った一般的な傾向)	No.	No.
属性	年代	50歳以上7割、50歳未満3割	50歳代・60歳代がほとんど	夫50代後半、妻50代後半	夫50代、妻50代
	世帯構成	夫婦での相談が半分	9割方が夫婦	子供2人は独立	子供なし
	出身地	-	-	夫婦とも東北地方	夫:神奈川県、妻:北海道(5歳まで)
	現住所	首都圏在住者が多い	首都圏在住者が半分、関西・東海	神奈川県横浜市	神奈川県横浜市
	職業	定年を控えた社員が大多数	定年者・定年間近な社員	夫は1年前に早期退職、妻はパート	夫は会社員、妻はフリー
移動先での暮らし方	移動形態	二地域居住から定住へ移行するパターンが多い	定住5割、季節限定5割	Uターン定住	Iターン定住
	移動先	首都圏近郊の希望が多い	函館・当別・伊達などが人気	福島県	北海道
	住居形態	最初は賃貸で購入に移行するパターンが多い	都市部では雪かきが不要なマンションも人気	一戸建て家庭菜園付き住宅を借りる	庭付きの一軒屋(賃貸の後、購入)
移動を考えたきっかけと移動の目的		定年退職をきっかけとする方が多い。家庭菜園や自然を楽しむスロライフ派が中心。仕事で稼ぐことは目的としない	定年退職をきっかけとする方がほとんど。観光や自然を楽しむ。就業希望も多いが実際に見つけるのは困難。	定年退職と親の介護問題がきっかけ。家庭菜園と趣味活動で自然を満喫したい。年金暮らし。	夫の定年退職と妻の健康問題(アレルギー体質)。家庭菜園と趣味活動で自然を満喫したい。
移動地域の選択理由		相談時に移動先を決めている場合の理由は、親の介護、Uターン、地域への思い入れ 相談時に移動先を決めていない場合の理由は、自然や気候、交通の利便性 最後は住宅と仕事、受入担当者の親身なお世話がカギ	観光都市・都市ブランド以外に都市機能の有無が重要。 北海道のなかでも気候が温暖(寒くても家が高気密・高断熱)、交通の利便性、車の利用が可能、美味しい地元食材などが要因。	親の介護問題と地縁 場所の絞込み要因は 田舎暮らしを楽しめる、親の住居に近い、雪がない、居住関係の価格が安い。	地縁(親戚・友人が多い)、その地域のファン、妻のアレルギー体質 場所の絞込み要因は 札幌のような都会は避ける、雪が少ない、交通の利便性、都市機能(仕事)、生活環境が分かる。
移動開始までのプロセス		相談者の4割程度は体験ツアー等を利用して現地を確認	相談窓口を通じて情報収集し、生活体験し、移住に至るプロセス(今年度30組以上が生活体験して2組が移住)	ここ1年間で下見を4-5回したが、体験ツアーへの参加は有意義。 地元住民と先行移動者との交流で安心感。	ここ2-3年のうちに仮の拠点を構えて、行ったり来たりしながら本格的に住宅を探す。現地情報は知り合いから入手するほか、体験ツアーに参加。
移動検討にあたっての問題と克服方法		積雪は避けたい意向強い。生活利便性や行政サービスは重視されず。医療・介護も決定要因とはならない。必要なのは観光情報ではなく、生活情報。	行政サービスは自治体ごとに優遇制度等のバラつきが不評。 必要なので生活情報、なかでも不動産情報。	雪は避けたい。車で1時間圏内に病院やスーパーがあればよい。現地との繋がりができたので空き家情報等を定期的に送ってくれる。	体験ツアーでは本音が聞けないので、移動の候補地は知り合いのいる所に偏りがち。親が病弱なのでそのケアをどうするかが問題。
国・自治体に対する要望		自治体のメニューごとの窓口の明確化	保有する技術・ノウハウを求める情報の提供。 空き家の活用を含めた受入のための住宅等のストック拡充。 地域をあげた(北海道全域での)統一的な移住等への優遇措置。	ネットによる一元的な情報提供 地元のならではの情報提供(農繁期の手伝いやスポット的な仕事など) 地域がどんな人に来てもらいたいのかを知りたい。 移動先の不動産の売却等の流通スキームを構築して欲しい。	生活レベルの情報が欲しい。体験ツアーも生活を実感できる内容に。 情報の一元的な管理とメールマガジン等による配信 移動失敗者の体験談や移住するまでの体験談を聞きたい。 情報提供から移動実行までのトータルな支援。

№ ． （ N P Oふるさと回帰支援センターが東京・銀座に設置している移動に係る情報提供・相談窓口「ふるさと暮らし情報センター」の担当者に聞いた一般的な傾向）

質問事項	回答
属性	<p>50歳以上が約7割、50歳未満が約3割 夫婦での相談が約半分（女性だけの相談も多い） 職業：定年を控えた社員が大多数</p>
移動先での暮らし方	<p>二地域居住から始めて定住に移行するパターンが多く、 住宅も最初は賃貸で、後で購入に移行する方が大半。 家庭菜園や自然を楽しむスローライフ派が中心。仕事を希望しても稼ぐことを目的とはしない。</p>
移動を考えたきっかけと移動の目的	<p>定年退職をきっかけとする方が多い。50歳未満では転職等で生活スタイルを変える場合。</p>
移動地域の選択理由	<p>首都圏近郊の希望が多いが、相談時に移動先を決めていない場合が約6割、決めている場合が約4割（決めている理由は親の介護、Uターン、その土地への思い入れ）、 その他の選択要因は自然や気候、交通の利便性など。 買い物、病院などは決定的な要因とはなっていない。 最終的には住宅と仕事が決まること、受入担当者の親身なお世話が決定要因となる。</p>
移動開始までのプロセス（現状）	<p>窓口を訪れる相談者の4割程度は体験ツアー等を利用して現地を確認。</p>
移動検討にあたっての問題（克服方法）	<p>気候はポイントになる（積雪を避けたい意向が強い）、 生活利便性や行政サービスは重視されていない。 医療・介護は重視されているが決定要因ではない。 コミュニティに馴染めるかどうかは事前に現地と交流してみる事が重要。 仕事を条件とする方は少ない（定年後は年金暮らし）、 欲しいのは観光情報ではなく生活情報である。</p>
国・自治体に対する要望	<p>各地域・自治体は、メニュー（農業、生活一般、医療・介護など）ごとの窓口がどこか明確にして欲しい。</p>

№ ． （北海道が委託して北海道・函館に設置している移動に係る情報提供・相談窓口「北海道コンシェルジュ」の担当者に聞いた一般的な傾向）

質問事項	回答
属性	<p>50 歳代・60 歳代がほとんどを占める。</p> <p>9 割方は夫婦、残り 1 割は男性 1 人、女性の友人同士など</p> <p>職業：<u>定年者・定年間近な会社員が大多数</u></p> <p>居住地：<u>首都圏が半分、残りは関西・東海・四国など</u></p>
移動先での暮らし方	<p>都市生活を離れ、<u>観光や自然を楽しむ方がほとんど。</u></p> <p><u>就業希望する方も多いが、実際に見つけるのは困難で仕事なしに移動する方も多い。</u></p> <p>移動先の住居は賃借と購入とで半々。</p>
移動を考えたきっかけと移動の目的	<p><u>定年退職をきっかけとする方がほとんど。</u> 最終目標は移住が 5 割、夏季だけの季節移住が 5 割。</p>
移動地域の選択理由	<p>北海道居住・勤務経験者 5 割、それ以外（観光など）5 割。</p> <p>函館市、当別町、伊達市などが人気。観光都市・都市ブランド（知名度）以外に<u>都市機能の有無が重要。</u></p> <p>当別町は<u>高気密・高断熱の家を提供する事業者もあり人気。</u></p> <p><u>雪かきが不要なので函館など都市周辺ではマンションも人気。</u></p> <p>北海道のなかでも<u>気候が温暖で、交通の利便性が良いこと、車の利用は必須。</u></p> <p><u>美味しい地元食材があることもポイント。</u></p> <p><u>インターネット環境はあまり求められず。買い物、病院などは一部を除いて決定的な要因とはなっていない。</u></p>
移動開始までのプロセス（現状）	<p>今年度 30 組以上が北海道コンシェルジュを通じて生活体験しそのうち 2 組が移住。移動希望者は北海道コンシェルジュを通じて情報収集し、生活体験により現地のことを知り、そのうえで移住に至るというプロセス。</p>
移動検討にあたっての問題（克服方法）	<p>気候はポイントになる（<u>積雪を避けたい意向が強い</u>）。</p> <p><u>行政サービスは自治体ごとに優遇制度等のバラつきがあることが不評。</u> コミュニティに馴染むため既存移住者との交流会を開催。</p> <p><u>4 シーズンの生活体験をして地域のことを生活目線で知ることが重要。</u></p>

	<p>欲しいのは生活情報、なかでも不動産情報である（不動産事業者のない地域は移動希望者個人で情報を集めている状態）。全道でDB化することも要検討。</p>
国・自治体に対する要望	<p>保有する技術・ノウハウを地域で活かしたい方が多いが、どこでそれを求めているのか分からない。その情報が欲しい。空き家の活用を含め、受入のための住宅等のストックがもっと必要。</p> <p>市町村バラバラの優遇措置ではなく、やるなら北海道全域で実施するべき。</p>

No .

質問事項	回答
属性	年齢：夫 50 代後半、妻 50 代後半（子供 2 人は独立） 職業：夫は 1 年前に早期退職、妻はパート 出身地：夫婦とも東北地方 / 現住所：神奈川県横浜市
移動先での暮らし方	<u>家庭菜園と趣味活動で自然を満喫したい。</u> 収入のために仕事はしたいが見つからないので、年金の範囲内で暮らす。 一戸建ての家庭菜園付き住宅を借りる。
移動を考えたきっかけと移動の目的	定年間近になったことと親の介護問題。もともと田舎暮らしはしたかった。
移動地域の選択理由	親の介護問題があるので福島県と決めた。観光で何度か行ったことがあるので大体のことは分かる。 さらに場所を絞り込むための要因は、 <u>田舎暮らしを楽しむこと、親の住居に近いこと、雪がないこと、居住関係の価格が安いこと。</u>
移動開始までのプロセス（現状）	ここ 1 年間で現地の下見に 4-5 回行った（季節ごとの違いもみるため）が、 <u>体験ツアーへの参加は大変役立った。地元住民や先行移動者との触れ合いで安心感を得、地元が暖かく迎えてくれることが分かった。</u> 個人で訪問してもこのような機会に出会うことはあり得ない。
移動検討にあたっての問題（克服方法）	気候については雪だけが問題。 <u>生活利便性は車で 1 時間圏内に病院やスーパーがあればよい。</u> 行政サービスの格差も気にならない。 <u>現地の方との繋がりができたので、ご好意で空き家情報等を継続的に送ってきてくれる。</u>
国・自治体に対する要望	土地をただで提供してくれる地域、住宅リフォームに助成してくれる地域、公営住宅を貸してくれる地域等があると聞くと聞くと、 <u>ネットで一元的に情報提供して欲しい。</u> 仕事情報ではない農繁期の手伝いやスポット的な事務等の <u>地に馴染まなければ入手できない情報が欲しい。</u> <u>地域がどんな人に来てもらいたいのか知りたい。</u> それ分かれば安心して行くことができる。 <u>移動先で買った不動産の転売や活用などができるスキームの構築をお願いしたい。</u>

No .

質問事項	回答
属性	年齢：夫 50 代、妻 50 代（子供なし） 職業：夫は会社員、妻はフリー 出身地：夫は神奈川県、妻は北海道（幼児期のみ） 現住所：神奈川県横浜市
移動先での暮らし方	<u>家庭菜園と写真等の趣味活動で自然を満喫したい。地元との交流には積極的に関わりたい。庭付き一軒家を希望。</u>
移動を考えたきっかけと移動の目的	<u>夫の定年退職が近づいてきたことと妻の健康問題（アレルギー体質）</u>
移動地域の選択理由	北海道に決めている。その要因は、 <u>地縁：親戚や友人が多い、 観光旅行を通じてファンになった、 妻がアレルギー体質であること。</u> 北海道内でさらに絞り込む要因は、 <u>東京と同じなので札幌は避ける、 雪が少ない、 交通の利便性がよい・空港から近い、 都市機能がある（仕事がある）、 生活環境が分かる（分からなくても知り合いが教えてくれる）こと。</u>
移動開始までのプロセス（現状）	<u>ここ 2-3 年のうちに北海道に仮の拠点（賃貸）を構えて、 行ったり来たりしながら本格的な住宅（購入）を探す。 現地情報の入手は知り合いから。知り合いのいない所は 体験ツアーに参加するなどして情報集めている。</u>
移動検討にあたっての問題（克服方法）	収入のための仕事をしたい。 <u>気候は雪だけが気になる。</u> <u>買い物は車で行ける範囲にあれば問題ない。</u> <u>体験ツアーではやはり本音のところは聞けないので、 移動の候補地は知り合いのいる所に偏りがち。</u> <u>親が病弱なのでそのケアをどうするか問題が残る。</u>
国・自治体に対する要望	自治体が提供する情報は幅広いが深みがない。スーパーの商品価格等の <u>現地の生活レベルの情報がもらえない。</u> <u>体験ツアーも生活を実感できる内容にして欲しい。</u> <u>情報には自分からアプローチしなければならない。情報を一元的に提供してくれる仕組みやメールマガジン等による配信をお願いしたい。</u> <u>先行移住者の暮らしぶりとともに失敗者の体験談を聞きたい。また移住するまでの体験談を聞きたい。</u> <u>情報提供から移住実行までのトータルな支援が欲しい。</u>

No .

質問事項	回答
属性	年齢：夫 50 代半ば、妻 50 代半ば（子供 1 人は学生） 職業：夫は会社員、妻は無職 出身地：夫婦とも東北地方 現住所：千葉県船橋市
移動先での暮らし方	自然に親しみながら家庭菜園などで畑を耕しながら生活したい。月 1 回程度共同作業に参加するなど、地域とは程好いお付き合いをしたい。
移動を考えたきっかけと移動の目的	定年退職をきっかけにすぐにも移住したい。千葉は引き払って完全に移住する。
移動地域の選択理由	出身地であり環境を良く知っているので福島県に決めている。やはり田舎暮らしがしたい。 福島県のなかでは、 <u>自然環境が良く四季がはっきりしていること、雪がないことを重視する。</u>
移動開始までのプロセス（現状）	総合相談センターや田舎暮らしの本で情報（不動産、地元行事、暮らし）を集めている。家は、 <u>地域との付き合い方もあるので、まずは借りて生活を試したい。</u>
移動検討にあたっての問題（克服方法）	仕事は見つかっていないが、 <u>生活費は東京の半分以下でよいので生活できる範囲の収入があればよい。</u> <u>生活利便性については車が運転できる 70 歳位までは心配ない。70 歳以降のことも考えれば公共交通機関の充実が必要だ。</u> <u>地域とのしがらみが嫌で地域を出ている人もいると聞く。集落の慣習など行ってみないと分からないのが困る。</u>
国・自治体に対する要望	<u>不動産情報、空き家情報に一戸建て・民間住宅の賃貸情報を充実して欲しい。</u> <u>いろいろな地域の情報を一元的に揃えてもらいたい。</u>

No .

質問事項	回答
属性	<p>年齢：夫 60 代、妻 60 代（子供 2 人は独立） 職業：夫（元商社）・妻ともに無職、たまにアルバイト等 出身地：夫・妻ともに奈良県 現住所：奈良県奈良市</p>
移動先での暮らし方	<p><u>観光地を巡り、自然を満喫し、スポーツを楽しみ、美味しいものを食べ、温泉三昧の日々。地元との交流には積極的に関わりたい。普通の家を探していたが、今は生活・福祉サービスの付いた有料老人ホームに入りたい。当面、夏は北海道、冬はオーストラリアを行ったり来たりする。</u></p>
移動を考えたきっかけと移動の目的	<p><u>夫の定年退職。奈良盆地の気候（夏の暑さ）が耐え難い。有料老人ホームを終の住家とする。</u></p>
移動地域の選択理由	<p>北海道内に決めている（特に函館市を希望）。 <u>その要因は、__気候（夏の爽やかさ）、__食べ物が美味しい、__スポーツを楽しめる、__病院・福祉サービスが充実している、__温泉がある、__周辺観光を楽しめる、こと。</u></p>
移動開始までのプロセス（現状）	<p><u>北海道で実施している生活体験ツアーに参加。既に数回北海道を訪れた。数ヶ所の有料老人ホームも見学して今は絞り込んでいる段階。かつては有料老人ホームに関する情報を得る方法がなかったが、ようやく北海道コンシェルジュ等が相談に乗ってくれ、情報が入手できるようになった。北海道コンシェルジュの担当者が親切で、現地情報を画像で送ってくれる。地元コミュニティとの交流会も役立った。</u></p>
移動検討にあたっての問題（克服方法）	<p><u>これまで北海道とのつながりはない。友人と一緒に移住するよう呼び掛けている（大阪で開催された北海道移住フェアに 5 組連れて行った）</u> <u>奈良には夫・妻ともに 90 歳を超える親がいる。親が健在の間は移住するのは困難。</u></p>
国・自治体に対する要望	<p>かつては国・自治体の取組みはなかった（大阪の北海道案内書にはパンフレットさえなかった）が、最近ようやく移住関連の情報が入手しやすくなってきた。 <u>とにかく生活に関わる情報をどんどん提供して欲しい。</u></p>

No .

質問事項	回答
属性	年齢：男性 50 代（未婚） 職業：会社員 出身地：長野県 現住所：東京都杉並区
移動先での暮らし方	<u>家庭菜園など自然を満喫しながらのスローライフが希望</u> 。チャンスがあれば地元との交流には積極的に関わりたい。 東京では副業的に中小企業支援の N P O 活動をしているので、 <u>中小企業支援などのコンサルティング活動があればボランティアとしてでも参加したい。</u>
移動を考えたきっかけと移動の目的	<u>定年退職が近づいてきたことと親（親戚等）が長野に暮らしていること。完全に移住するか二地域居住にするか未定。</u>
移動地域の選択理由	長野に決めている。親の家に車で行ける距離であれば良い。 長野に決めている理由は、 <u>地縁：親（親戚等）が住んでいる、 出身地だけに暮らしぶりが分かる、自然が豊かである、こと。</u> 長野のなかでも、 <u>交通の利便性がよい・高速道路インターから近い、 都市機能がある（N P O 活動等ができる）、雪が少ない、</u> ところを希望している。
移動開始までのプロセス（現状）	家庭菜園のできる一戸建てを探すことから始める予定。 最初は賃貸物件を借りて様子を見たい。気に入れば購入するかも知れない（東京の家を処分するかは未定）。 <u>不動産は地元の不動産屋や親戚等から紹介を受ける。生活体験ツアー等に参加する必要はないが、不動産情報等を提供してくれるセンターがあるのならば利用したい。</u>
移動検討にあたっての問題（克服方法）	中小企業支援活動は場所を選ばないので長野でも同様の活動ができるのであればやってみたい。 ただし、 <u>地元が求めるスキル等の内容や程度が分からないし、自分のスキルが充分かどうかの不安もある。</u>
国・自治体に対する要望	<u>不動産情報等を提供してくれるセンターがあるなら情報が隅々まで届くように発信して欲しい。</u> <u>地元がどんなスキルを求めているのか（内容やレベル）知らせて欲しい。</u>

No .

質問事項	回答
属性	年齢：夫 60 代前半、妻 50 代後半（子供なし） 職業：夫は会社員、妻は無職 出身地：夫婦とも東京 現住所：東京都調布市
移動先での暮らし方	<u>南アルプスと八ヶ岳を眺める生活をしたい。本格的農業ではなく、家庭菜園を楽しみたい。</u> 妻が東京で地域コミュニティとの付き合いがあるので <u>行ったり来たりの二地域居住生活になる。</u>
移動を考えたきっかけと移動の目的	以前から検討していたが、定年退職を機会に <u>田舎暮らしを検討している。</u> 都会生活もしながら行ったり来たりの生活を楽しみたい。
移動地域の選択理由	<u>山が好きで中央高速で行きやすい八ヶ岳方面で物件を探している。</u> 月に何度か行き来することになるので都会との距離が気になる。長野県はやや遠いので山梨県で物件探しをしている最中。 <u>晴天の日が多いことと雪の心配が無いこと</u> が八ヶ岳方面を検討する理由。
移動開始までのプロセス（現状）	最初は <u>田舎暮らし本やリゾート専門誌、インターネット等で情報収集し、別荘地もいくつか見て回った。</u> 今は <u>地元の不動産業者で田舎暮らし物件を扱う専門業者と知り合い物件を案内してもらっている。</u>
移動検討にあたっての問題（克服方法）	仕事は特に今のところ考えていない。とにかくスローライフを楽しみたい。 <u>家内の親の介護の問題がいずれ出てくるだろうが兄弟がいるので何とかなる。</u> 地域との関係を少し懸念したが、不動産屋によれば定住でなければそれほど気にする必要も無いらしい。
国・自治体に対する要望	家を建てる際に補助（浄化槽設置）が出る自治体と出ない自治体があるので統一して出すようにしてほしい。